

# 大分の史跡－大友氏遺跡－

大友氏遺跡は、戦国時代の大友氏の館跡を中心とした遺跡で、発掘調査によってその歴史的価値が高まり、平成13年に国の史跡に指定されました。その後、旧万寿寺地区や上原館跡なども追加指定を受け、現在、歴史公園の整備に向けた調査が続けられています。



発掘調査が続く大友氏遺跡

## 中世豊後府内のまちと大友氏遺跡



## 巨大庭園をもつ大名館

発掘調査によると、21代宗麟時代の<sup>そうりん</sup>大友館は、一辺約200m四方の広さをもつ日本最大級の戦国大名の館であったことがわかりました。また、館の中央には礎石を使った大きな建物跡が、南東には池・<sup>けいせき</sup>景石・<sup>つきやま</sup>中島・築山などを配した東西67mの規模をもつ巨大な庭園跡が、それぞれ確認されています。

## 地方最大級の禅宗寺院跡－旧万寿寺－

万寿寺は、大友氏5代貞親が創建した臨済宗寺院で、天正14年(1586)の島津氏の侵攻により大半を焼失するまで約300年間存続し、「<sup>てんかじっさつ</sup>天下十刹」にも名を連ねる寺院でした。発掘調査により、寺域を区画する堀跡が確認され、東西250m・南北300m以上の大寺院であったことが判明しました。なお、金池町にある現在の万寿寺は江戸時代に再建されたものです。



旧万寿寺堀跡

## 巨大な堀と土塁－上原館－

大分川左岸の低地にある大友館に対し、上野台地に立地した上原館は、大規模な空堀と土塁を備えたもう1つの館です。大友氏の軍事的特徴を示す施設で、平成26年に追加指定を受けました。



上原館跡